

## 4章 総合問題4

### 問題

#### 【1】

#### 解答

- (1) 「全訳」の下線部④参照。
- (2) 言葉は誰もが話すものだから、それを研究する言語学は大衆的であり、文学は一部のエリートである最高の知識人が営むものなので、その研究も、少数の存在である、貴族的であるということ。
- (3) 「全訳」の下線部④参照。
- (4) 解答例1：あらゆる人間の知識は言語がなければ伝達できないということ。  
解答例2：言語はあらゆる人間の知識を伝える必要不可欠の伝達手段だということ。

#### 解説

- (1) ○ cease to … 「…をやめる」  
○ dry-as-dust 「無味乾燥で；面白くない」 = extremely dull  
○ that 以下は関係詞節。  
○ Many people have suspected it (= linguistics) of being the dry-as-dust subject.  
の文から the dry-as-dust subject が that に換わり前に移動したもの。  
○ suspect = have an idea or impression of the existence, presence, or truth of (something) without certain proof 「(確かな裏付けなしに) ~という考え [印象] を持つ」  
*Ex. She suspected that he might be bluffing.*  
(彼女は彼が脅しているのかもしれないと思った。)  
○ suspect は後ろの内容を肯定する意味を持つことに注意。  
*cf. doubt* ~ は後ろの内容を否定して「~ではないと思う」の意。
- (2) ○ まず、democratic と aristocratic は対照的なものと捉えよう。つまり、ここでは二項対立的に **A**: democratic, **B**: aristocratic が提示されていることに注目する。  
○ 英文では General (抽象) → Specific (具体) の論理展開になっていることがほとんどであるので、後述の部分进行参考にする。  
○ **B**: aristocratic (ℓ. 10) は次文で説明されている。解答はこの部分を採用する。  
○ ~ human activity as carried on by the best minds  
○ as は形容詞節を導く as。この形では通常は as 以下は独立文が置かれるのだが、受け身の文が続く場合は、節中のはじめの S' be が省略されて as 以下に過去分詞が置かれる。本文はこの形である。  
*Ex. This is Rome as it is seen from the air.*  
→ This is Rome as seen from the air.  
(これが空中から見られるようなローマだ。)  
○ the best minds は後述部分で the intellectual elite で言い換えているので「(思考

する) 人」の意味となる。

○ mind [原義] 思考する箱

① 思考する枠組み「頭；心」

② 思考する箱の中身「思考」

③ 思考する箱を所有する人「(思考する) 人」

○ carry on ~ = engage in activity

Ex. He could not *carry on* logical conversation.

(彼は論理的な会話をする事ができなかった。)

○ [A]: democratic に関してはℓ. 13 の on the other hand がヒントになる。

○ On the other hand は「他方～」の意味で [A] と [B] との対照関係を表す談話標識。  
これ以後に [B]: aristocratic と対照される [A]: democratic の説明がされていると考  
える。

○ democratic の訳出に戸惑うかもしれないが, ℓ. 13 で everybody が関与するもの  
との記述があるので, 少数の aristocratic との対比から「民衆的／大衆的」とした  
いところ。

○ ℓ.13 something to which everybody contributes by the mere fact that he speaks  
it. は everybody contributes to something by the mere fact that he speaks it.

↓

to which

と変形して‘前置詞＋関係詞節’となったもの。したがって, which の前の to は  
contribute to ~ (～に貢献する) の to. it は language を指す。

○ the mere fact that … の that 以下は同格の名詞節。「…ということ」の意味。

ここでは前置詞の後なので, ただ単に文を名詞化している表現。

(3) ○ この箇所は典型的な省略表現。等位接続詞 and, but, or や, で区切られている表  
現では, 述部とその周囲の語句が共通の場合は, 後続の部分では省略が生じる。

○ Parents transmit their language peculiarities to their children, teachers (transmit  
their language peculiarities) to their students, leaders (transmit their language  
peculiarities) to their followers, members of a social group (transmit their  
language peculiarities) to one another. と補って考える。

○ transmit A to B 「A を B に伝える」

○ peculiarity = a characteristic that is distinctive of something

(4) ○ 説明問題では代名詞は具体化し, 省略等があるときはその部分を補って, 完全形に  
して訳出すること。ここでは it は language を指す。

○ vehicle の解釈が「車；乗り物」としたのでは意味不明である。ここでは,

a thing used to express, embody, or fulfill something

(何かを表現したり, 表したり, 満たしたりするのに用いられるもの)

の意味として用いられている。context や敷衍表現からも類推して試みるのが大事  
である。

○ 直後にやはり, language を受ける It で始まる文が置かれているので,

the indispensable vehicle は  
the basic foundation of all human cooperation とわかる。

また、

ℓ. 13 の Language, ~, is something to which everybody contributes …

ℓ. 17 の The most fertile field for the cooperation of the entire community is language,  
などを参考に総合して考える。

**全訳**

言語の歴史は人間の文明の歴史である。言語においてほど、文明が完璧に映し出されているところは他にはない。もし、我々の言葉に関する知識あるいは、その言葉そのものがまだ完全なものとなっていなければ文明もまた同様に完全なものにはなり得ない。

言語は、人間に関わるすべてのものと同様に、永遠に変化し進化している。言語学は、言語の進化を司る法についての研究であるが、言語を話す人々や彼らの文明に光を当てた時に初めて、社会的に有意義なものとなる。この光が適切に投射されると、④言語学は、多くの人が抱いてきた無味乾燥な学問領域だとの印象を拭い去ることができ、人類そのものの研究と同様に大変興味深いものになる。

言語や諸言語の研究は本来、民衆的なものであるとされてきた。これとは対照的に、文学研究は本質的に貴族主義的なものである。文学は最高の知識人、すなわち、人間社会の知的なエリートによって営まれるような人間活動を反映しているからである。

他方、言語は誰もが話す、というまさにそのことによって、皆が寄与できるものである。

④親が子に、教師が生徒に、指導者がその支持者に、そして社会集団の成員はお互いに、自分たちの言語の特徴を伝えるのだ。

全社会が協力し合える最も実りある領域は、言語（領域）である。それは皆が言語をほとんど例外なく所有し使うからである。したがって、言語研究は最も高度な社会科学の一分野となり、あらゆる人間社会の道具であり産物なのである。

言語はまた、それ以上のものでもある。話し言葉であれ書き言葉であれ、言語は全人間の知識を伝える必要不可欠の（伝達）装置である。それは全人類が協力し合う時の根本的な基盤であり、これなくしては、どんな文明も起こり得ないのである。

**注**

ℓ. 1 ◇ story = an account of past events in someone's or in the development of something  
ここでは「歴史」の意味。

◇ Nowhere is civilization ~ 否定語に伴う倒置形。否定語の後ろは疑問文の語順になる。

Nowhere is civilization so perfectly mirrored as ~

否定語      V              S                      C

○全体が No ~ so … as —（一ほど…な～はない）という比較の典型表現。

*Ex. No political leaders are as conservative as those who have come to power after a successful revolution.*

（革命に成功して権力の座についた政治指導者ほど保守的なものはない。）

○このパターンは結局は最上級を逆に言い換えたものと考えられる。

*cf. Mt. Everest is the highest mountain in the world.*

= Mt. Everest is higher than any other mountain in the world.

= No mountain in the world is higher than Mt. Everest.

ℓ. 2 ◇ mirror ~ = show a reflection of ~ (～を映し出す)

◇ speech = ①不可算名詞「(話し) 言葉；言語」「発話能力；行為」  
②可算名詞「演説；スピーチ」

ℓ. 3 ◇ neither is civilization.

○ Neither VS 「S もまた～ではない」

○ ここでは, Civilization is not yet perfected either. を意味している。

ℓ. 4 ◇ as are all human things

= as all human things are (forever changing and evolving)

○ as は ' 様態 ' を表す接続詞

ℓ. 6 ◇ shed ~ 「光を～に対して放つ」 = cast or give off (light) shed light on {upon} ~

ℓ. 8 ◇ absorbing = intensely interesting

ℓ. 9 ◇ language = ①不可算名詞「言語」②可算名詞「一民族；一国家の国語」

ℓ. 10 ◇ aristocratic 「貴族的な」

ℓ. 17 ◇ fertile = (of a situation) encouraging a particular activity or feeling

ℓ. 18 ◇ practically 「ほとんど」 = virtually ; almost

◇ possess ~ 「～を持つ」 = own ~

ℓ. 21 ◇ indispensable = absolutely necessary

ℓ. 22 ◇ foundation = something serving as a base or background for overlying element

## 【2】

### 解答

(1) 「全訳」の下線部①, ②, ③参照。

(2) c (3) c → f → d → a → e → b → g [not the old cheerful person I was]

(4) b (5) a (6) a

(7) It's a mixed group, though, with parents grieving for their dead and people like Anne, whose son is only HIV-positive and may have many years to live, all thrown together.

(8) community (9) b (10) (A) e (B) a (C) f (D) c

(11) a, g (12) a, g

### 解説

(1)

① ○ agree to ... 「…することに同意する」

○ on condition that ... 「…という条件下で」

○ (on condition that) I not use

not use は仮定法現在と呼ばれる形で should not use と同意。

○ physical 「外見上の」

○ identify ~ 「～を特定する；～が誰であるかがわかる」

- Ⓒ ○ once revealed = once they are revealed to be “cursed”
- otherwise 「その他の点では」
- result in ~ 「～という結果になる」 cf. result from ~ (～に起因する)
- health insurance 「健康保険」
- medical bills 「医療費」

- Ⓓ ○ out of touch 「連絡が途絶えて；音信不通で」
- for as long 「同じくらいの間」  
ここでは for five weeks (5週間もの間)。
- no ~ whatsoever 「少しの～もない」  
whatsoever は前の no ~ を強調する形容詞。

Ex. I have *no* doubt *whatsoever* that she is telling a lie.

(彼女が嘘をついていることには少しの疑いもない。)

- (2) a half-dozen (半ダース) = 6

○ a dozen = 12

- (3) 前後の文脈から、ここでは「私は以前のような人間ではない」という内容が続くことがわかる。「A は以前のような  ではない」に対応する基本形は、‘A is not the 名詞 (that) A was.’ (that は省略可。しかし which は不可) であるから、(I’m just) not  I was (before) という骨組みが見えてくる。残った cheerful, old, person, the の並べ方については、the *old cheerful* person と the *cheerful old* person の2通りが考えられるが、ここでは the *old cheerful* person の語順にしておくてはならない。なぜなら、the cheerful old person とすると「陽気な年老いた人」という意味になってしまうからである。

- (4) まず、small talk は「日常的な何気ない話 (= light social conversation about unimportant or uncontroversial matters)」の意味。past はここでは前置詞で「～を通り過ぎて」、long は副詞で「久しく」という意味。したがって、「アン自身は久しく日常の何気ない会話から遠ざかっている」、つまり「もうずっと日常的な会話をしていない」ということである。

- a 「アンはいつも小さな声で話していた。」
- b 「アンはもはや日常の会話を楽しむことができない。」
- c 「アンはもう誰にもそれ以上話すことはない。」
- d 「アンは些細なことについて話すのを許されていない。」
- e 「アンは電話に出ることができない。」

- (5) その前の部分には「AIDS について発言する人はたくさんいるのだから、人々の AIDS に対する問題意識は高いものだと思い込んでいた」とあり、空所を含む文の後には、So (だから) という因果関係を表す接続詞に続けて、「だから、私はそうした危機の核心にいる人々——つまり  人々がまったく孤独だということに気づかなかった」とある。したがって、空所には a が入る。

- a 「積極的に AIDS 問題に取り組んで (いる)」
- b 「AIDS を意識して (いる)」

c 「AIDS についての教育をして (いる)」

d 「AIDS について話して (いる)」

- (6) 空所を含む部分は practical problems ( ) immediately for those known to be “cursed” なので ( ) には自動詞が入る。選択肢の中で自動詞なのは, a arise, c exist, d take place だが, 主語の practical problems に呼応できるのは, a arise のみ。d の take place は, 「(予定されたものが決まった場所, 時に) 起こる」の意味で用いるので, ここでは不可。なお, b の bring up に, 「～ (=問題など) を取り上げる」の意味がある点に注意。

Ex. Mr. Brown *brought* the matter *up* for discussion.

(ブラウン氏はその問題を討議にとりあげた。)

- (7) , whose son is only HIV-positive and who may have many years to live,

Ⓐ

○Ⓐの部分 and may have many years to live に主語が欠落していると考え, 主格の who を入れて破格の文となってしまった。

○, whose son が is ～と, may ～の共通の主語であるから who は不要。

- (8) would like to rejoin the mainstream (再びメインストリームに戻りたい) とあるのだから, mainstream は以前自分がいたところである。ℓ. 11 の she was a *community* activist, ℓ. 56 の isolated from the *community* she belonged to から考えれば community を意味することがわかる。

- (9) 空所を含む文の主語は, 何らかの被害を受けた人々や動物であり, 目的語は contributions (援助) や sympathy (同情) である。その前でアメリカ人のボランティア活動に関することが述べられていることを考えると, b の inspire (奮起させて (～を) させる) が適当。a の discourage (～を落胆させる), c の involve (～に関わり合う), d の make (～を作る) はいずれもここでは不適。

(10)

(A) 「こういう明るい側面 (だけ) を見て, アメリカは AIDS に対して行動を起こしているという印象を持っていた」というような意味になる e の Looking on (= Since I was looking on) the bright side, … が正解。

(B) 直後に, Ann tells of losing her closest friends and family members とあり, これは possible ostracism とは異なることなので, 「これから起こりうる迫害の恐怖に加えて…」という文脈となるはず。a の aside from ～ (～は別として, ～の他に) が正解。

(C) 空所の後の helping out は「手を差し伸べること, 援助すること (= ボランティア活動など)」ということ。したがって, 空所を含む部分は「アメリカ人は, 他人を援助することに関しては心が広い」という意味になると推測できる。f の when it comes to ～ (～のこととなると) が正解。

(D) 段落の冒頭からの流れは, 「多分我々は AIDS を metaphor だと考えていくべきなのだろう」「しかし, それを判決としてではなく試金石として見るべきだろう」となっている。したがって, それに続く部分は「ただし, 試されるのは～ではなく…だ」のようなつながりになると推測できる。c の except that … 「…だということを除いて,

ただし…だ」が正解。

Ex. I'd buy a set of furniture, *except that* I don't have any money.

(家具を買いたい、金がない。)

(11)

- a 「AIDS の犠牲者のいろいろな問題を本当に心配してくれる人々がほとんどいないということに、私は失望している。」  
これは本文の主題である。
- b 「私は息子が戻ってきて一緒に暮らすのを楽しみにしている。」
- c 「私は支援団体が私にしてくれた援助に満足している。」  
援助に感謝はしているが、彼女は社会の「メインストリーム」に戻りたいのである。
- d 「最近私は夫となんとかかろうじて正面から話し合うことができる。」  
○ barely 「かろうじて… (する)」
- e 「私は AIDS が単なる他人の問題であればいいのだから願っている。」
- f 「私は息子が同性愛者でなければいいのと思っている。」
- g 「私はまた通常の世間と付き合いしていく生活に戻りたいと思う。」

(12)

- a 「AIDS は、何か悪いことをした人々に対するある種の道徳的な罰である。」
- b 「アメリカ人は AIDS の犠牲者を救うために十分なことをしていない。」
- c 「反 AIDS の偏見は、病気そのものと同じくらい害のあるものである。」
- d 「アンが昔持っていた社会的支援の輪が消滅してしまったのは残念なことである。」
- e 「Susan Sontag は AIDS が隠喩として見なされていると主張している点において正しい。」
- f 「身動きがとれなくなってしまった鯨は、AIDS 犠牲者と同じだけ心配されるに値しない。」
- g 「我々は AIDS という道徳的な試験に合格してきた。」

全訳

アンは法からの逃亡者のように振る舞っている。①彼女は、本名や身元を明らかにしてしまいう可能性があるその他の外見上や地理上の詳細な情報を一切出さないという条件で初めて私に話をすることに同意した。しかし、それでも彼女は神経質に、ソファとアームチェアの間を行ったり来たりし、コーヒーテーブルの上にある雑誌をいじったり、マグカップに紅茶をひっきりなしに注いだりした。我々が会話をしている最中にドアの呼び鈴が鳴ると、彼女は私に見せるために取り出してくれた本をさっと持ち、それを別の部屋に片づけてから、ドアの方へ向かった。その本というのは、*AIDS Information Resources Directory* (エイズ情報支援案内) という本で、ほんの数カ月前に自分の息子が HIV の検査で陽性とわかってから、彼女は彼女なりに「密かに活動を続けて」いるのだ。

AIDS が彼女の生活に入ってくるまでは、アンはドアの呼び鈴が鳴るとビクッとしなければならぬような人間ではなかった。彼女は、郊外に住む、地域の活動家であり、PTA 活動から環境問題や女性解放問題へと活動範囲を広げていた。「あたたかくて面白い」というのが、共通の友人がアンの、正確に言えば、昔のアンの特徴を述べるのに使っていた言葉だった——彼女の夫は尊敬されている地元の実業家である。彼女の息子は、ほんの6年前に最優

秀の成績で高校を卒業し、その高校の理科の教師の間で、依然として語り草になっている。

しかし今や彼女の生活は、生涯において最悪の危機にあり、アンは自分の世間との付き合いの範囲が自分の周りで狭くなっているのを見つめている。パーティーや夕食会とはすでに縁がなくなっている。「私はもはや以前のような陽気な人間ではありません。」とアンは説明する。彼女の夫のジムが家にいる時は、電話に出るのは彼の仕事である。アン自身はずっと前から日常的な世間話というものを楽しめなくなっている。「『このこと』について話せないのです、私には、話すことはほとんどないのです。」と彼女は言う。そして、アンの世界では「このこと」について話すのが禁じられていることは明らかである。

我々アメリカ人は、全体として見れば、もう少し高い意識の到達点にあると私は思っていた。映画スターたちが AIDS について語り、公衆衛生局医務長官もそして、多分、ごく普通の高校のサッカーのコーチや性教育に携わる人たちもそうなはずである。このような明るい側面を見ていたので、アメリカは、ワシントンを行進したり、キルトを作ったり、新しい行政部門を組織したり、自己省察をしたりというように、AIDS に関して行動を起こしているという印象を持っていた。しかし、AIDS に積極的に取り組んでいる人がいかに少ないかということとその時まで実際には気づいていなかった。だから、そうした危機の核心にいる人々、——つまり HIV に感染しているかもしくは AIDS の症状が出ている人々、そういった人々の愛する人たち——がまったく孤独にいるということを理解する準備ができていなかったのだ。

だから、実際彼らは孤独なのだ。彼らが秘密を保つのは 100 パーセント自衛上のためである。1990 年代においてさえも、「呪われている」と知られている人々にはすぐに現実的な問題が生じるということを彼らは知っているのである。⑧いったん「呪われている」ことが明らかになってしまうと、他の点ではまったく健康な人が気がついてみると職を失っていて、健康保険を失い、増大する医療費を支払えなくなるという事態になるのである。次に失うのはアパートやマンションである。つまり、若くて元気な犠牲者は、通常は実家へ戻って両親と一緒に暮らさざるを得なくなるのである。疑い深い近所の人々が、ガレージの扉に大きな文字で AIDS とペンキで書き、その結果両親が時に仕事をさえ失ってしまったということが知られている。迫害を受けるかもしれないという恐怖に加えて、最も親しい友人や家族さえ失ってしまうことについてアンは語っている。当初、アンは自分の秘密を最も親しい 2 人の友人にだけ話した。その後、2 人は 5 週間も電話をかけてこなかった。そして、その 2 人の 1 人が電話をかけてきた時も、本を借りるためであり、アンに家族に起きた悲劇については一言も触れなかった。⑨彼女の兄弟姉妹やいとも 5 週間もの間音信不通になっていて、まったく何の連絡もない。彼女と夫は家にいるだけでほぼ完全に孤立してしまっている。

最近になって、アンは HIV に感染した人々の両親や友人のための支援団体があることを知った。しかしながら、その団体は、亡くなった子供を嘆き悲しむ両親や、またアンのように息子が HIV 陽性というだけで、これから長く生きる可能性のある人々などが、すべて一緒になった団体である。アンはこの団体があることを深く感謝していて、地元の身の上相談電話でボランティア活動すら始めている。しかし、彼女は「メインストリーム」に再び戻りたいと思っている。彼女は、人生に AIDS の汚点が付いていない人々、つまり、彼女のことや彼女の夫や息子のことを気遣ってくれる人々からの電話が欲しいと思っている。しかし、

世間の偏見のために、彼女や、そして何百万もの他の人々、例えばゲイやそうでない人々、AIDS 発病者や、発病の危険性がある人が、秘密や恐怖からなるますますせまくなる世界に追いやられている。

私は、自分自身のような人々、つまり、これまで AIDS によって直接人生を汚されたことのない大多数の人々に対する漠然とした情けなさを抱きながら、アンの家を後にした。アメリカ人は手助けをすることになると寛大な人々である、と私は以前からそう思っていた。地震の被害者、肢体が不自由な子供たち、井戸に落ちた赤ん坊、網にかかって身動きがとれなくなってしまった鯨ですら、我々アメリカ人にとっては助けてあげたい、かわいそうだという同情心が起こるものであるのだ。Susan Sontag が *AIDS and Its Metaphors* 『エイズとその隠喩』という本で論じているように、我々は AIDS を他の病気と同じようなものとして見ずに、いわゆる「隠喩」として、つまり、道徳上の罪を犯した人々に対する一種の道徳上の罰として見る傾向がある。アンはこの隠喩を自ら身を持って体験しているのである。まるで彼女が何か恐ろしく許し難い誤りをしてしまっているかのように、自分が属していた社会から隔離されているのである。

我々は AIDS を隠喩として考えていくべきなのかもしれない。だが、もしかするとそれを判決としてではなく、試金石と見なすべきだろう。ただし、試されているのは、アンや彼女の夫や息子のような人々ではなくて、そういった人々を除いた我々、つまり、AIDS を「他の人の問題」とみなせるほど幸運だった人々なのである。これは我々の根本的な道徳性に関する試金石であり、我々が最も簡単に、しかも最もありふれたやり方で、苦しんでいる人々に手を差し伸べる能力があるかどうかという試金石なのである。そして、私がアンを通して知ったことは、これまでのところ、我々は不合格であるということである。

**注**

ℓ. 1 ◇ fugitive (from ~) 「(~からの) 逃亡者」

*e.g. a fugitive from justice* (逃亡犯)

◇ on condition that ... 「...という条件で」

ℓ. 2 ◇ (on condition that) I not use

前述したように、not use は仮定法現在と呼ばれる形で should not use と同意。仮定法現在は受験生の盲点。

◇ physical 「外見上の」

ℓ. 3 ◇ identify ~ 「~を特定する；~が誰であるかがわかる」

◇ still 「しかし；それでも」

◇ moving from ..., fussing with ..., refilling our mugs with tea : 分詞構文。

○ fuss with ~ 「~をいじりまわす←~を気にしすぎる」

ℓ. 4 ◇ refill ~ with ... 「~を...で再び満たす」

*cf. refill* [rɪˈfɪl] *n.* (スベア；替え芯)

ℓ. 5 ◇ halfway 「途中で」

◇ snatch ~ 「~をさっと取り上げる」

ℓ. 7 ◇ “underground” 「密かに活動を続けて」

ℓ. 8 ◇ test positive 「検査で陽性の結果がでる」

- test + C 「検査で C の結果がでる」
- positive 「陽性の」 ⇔ negative 「陰性の」
- ℓ. 11 ◇ jump 「どきっとする；びくっとする」
  - ◇ suburban 「郊外の」 < suburb 「都市のベッドタウン」
- ℓ. 12 ◇ branch outward from ~ to … 「～から…へと活動範囲を広げる」
  - ◇ feminist 「女性解放の」
- ℓ. 13 ◇ mutual 「共通の」 (= common) *cf. mutual distrust* (相互不信)
  - ◇ — the old Anne, 「昔のアン」
- ℓ. 14 ◇ respected *adj.* 「尊敬されている」 *cf. respectable* (まともな)
- ℓ. 15 ◇ graduate with the highest honors 「一番で卒業する」
- ℓ. 17 ◇ social world 「世間との付き合いの範囲」
  - ◇ shrink in 「縮む」 ※ in は副詞。
- ℓ. 21 ◇ forbidden 「禁じられた」 < forbid
- ℓ. 22 ◇ collectively 「全体として見れば」 ※ここでは文修飾副詞として用いられている。
- ℓ. 23 ◇ so does the surgeon general and … sex educator = the surgeon general and …  
sex educator talk about AIDS, too
  - surgeon general 「公衆衛生局医務長官」
  - ◇ I presume = presumably
- ℓ. 25 ◇ take action about ~ 「～に対して行動をとる」
  - ◇ quilt [kwilt] 「キルト」
    - 2枚の布地の間に芯として綿などを入れて模様縫いにした物。
- ℓ. 26 ◇ search *one's* soul 「自己を見つめ直して反省する」
  - < soul-searching 「自己分析；内省」 (its = America's)
- ℓ. 27 ◇ people at the heart of the crisis 「難局の核心にいる人々」
- ℓ. 28 ◇ their loved ones 「彼らが愛する人たち←彼らにより愛されていた人々」  
(= ones who were loved by them)
- ℓ. 29 ◇ defensive 「自衛の」 = protective ⇔ offensive
- ℓ. 30 ◇ those known to be “cursed” = the people who are known to be “cursed”  
「『呪われている』と知られている人々」
- ℓ. 31 ◇ once revealed = once they are revealed to be “cursed”
  - ◇ otherwise 「その他の点では」
  - ◇ result in ~ 「～という結果になる」 *cf. result from ~* (～に起因する)
- ℓ. 32 ◇ health insurance 「健康保険」
  - ◇ medical bills 「医療費」
  - ◇ Next to go is ~. 「次に失うのは～である。」
- ℓ. 33 ◇ vigorous 「元気な」
- ℓ. 34 ◇ Suspicious neighbors have been known to paint “AIDS” in huge letters on garage doors, causing parents sometimes to lose jobs or business. 「疑い深い近所の人々が、ガレージの扉に大きな文字で AIDS とペンキで書き、その結果両親が時に仕事さえ

- 失ってしまったということが知られている。」
- 具体的に言えば、若くて元気そうに見える若者が、親元に帰ってきてめったに外出しないという状況に対して不信感を持っている近所の人々のこと。
  - He has been known to write fifty letters a day. といった表現は、慣用的に、to不定詞の動詞の方が主節の動詞よりも過去を表す。つまり、It is known now that he has written [wrote] fifty letters a day. [or He is known to have written fifty letters a day.] と同じ意味になる。本文ℓ. 34～35もこれと考え方は同じ。
- ℓ. 39 ◇ out of touch 「連絡が途絶えて、音信不通で」  
 ◇ for as long 「同じくらいの間」ここでは for five weeks (5週間もの間)。
- ℓ. 41 ◇ affected people 「HIV に感染している人々」  
 ○ affected 「(病気に) おかされた」
- ℓ. 42 ◇ grieve for ～ 「～を悲しむ」
- ℓ. 45 ◇ hot line 「身の上相談電話」
- ℓ. 47 ◇ prejudice has pushed her into a shrinking world of secrecy and dread  
 「偏見が彼女を秘密と恐怖からなるますますせまくなる世界へ押しやってしまった」  
 ○ push A into B 「A を B へ追いやる」
- ℓ. 48 ◇ gay and straight 「ゲイの人もそうでない人も」  
 ○ straight = heterosexual  
 ◇ already afflicted and just “at risk”  
 「エイズの症状がすでに出ている人も単に HIV に感染していて発病の危険があるというだけの人も」  
 ○ afflict ～ 「～を苦しめる」
- ℓ. 50 ◇ vague 「漠然とした」  
 ◇ the majority 「大多数の人々」 ⇔ the minority
- ℓ. 51 ◇ touched ≡ marked (ℓ. 46)
- ℓ. 52 ◇ generous 「寛大な」  
 ◇ crippled 「身体に障害のある；手足の不自由な」  
 ◇ a baby in a well 「井戸に落ちた赤ん坊」
- ℓ. 53 ◇ a trapped whale 「網にかかって身動きがとれなくなった鯨」  
 ◇ contribution < contribute
- ℓ. 56 ◇ sin 「(道徳上、宗教上の) 罪を犯す」  
 ◇ Anne is living this metaphor 「アンは実際にこの隠喩を体験している」  
 ○ live ～ 「生活の中で～を具体化する」
- ℓ. 57 ◇ unforgivably 「許しがたいほどに」
- ℓ. 58 ◇ maybe 「もしかしたら」  
 番号の順で可能性が低くなる。  
 1. always (いつも)  
 2. certainly (確かに)  
 3. very likely ; most likely (多分)

4. probably (多分)  
 5. likely (多分)  
 6. maybe (もしかすると)  
 7. possibly (もしかすると)  
 8. perhaps (ことによると)  
 9. almost never ; hardly [scarcely] ever (めったに～でない)  
 10. never (いかなる時でも～でない)
- ℓ. 59 ◇ not as a judgment but as a test 「判決としてではなく試金石として」  
 ℓ. 60 ◇ the rest of us 「(我々という) それ以外の人々」  
 ※ この of は ‘同格’。  
 ◇ people who have been fortunate enough to … 「…するほど幸運であった人々」  
 ℓ. 62 ◇ reach out to ～ 「～に手を差し伸べる」  
 ◇ commonplace 「平凡な」  
 ℓ. 63 ◇ hurt *vi.* 「(体の部分, 心が) 痛む」  
*Ex. It hurts!* (痛い!)  
 ※この自動詞の用法は受験生の盲点。

### 【3】

A.

**解答**

- (1) a      (2) d      (3) c      (4) d

**解説**

- (1) 「この極めて精巧なコンピュータは考えられる最高のものだ。」  
 thing は形容詞が後ろから修飾する。  
 ○ imaginable 「想像しうる」, imaginary 「想像上の」, respective 「それぞれの」, respectful 「敬意を表した」
- (2) 「私が聞き取れるようにゆっくり話して下さい。」  
 ○ so that S may [can, will] … 「Sが…するために」  
 ○ as though S V = as if S V 「まるでSがVであるかのように」  
 ○ now that S V 「今やSはVなので」
- (3) 「彼は愚かだったのでそのパーティーを台無しにした。」  
 X as [though] S V, = Though S V X, となるが, though の場合には明らかに譲歩の意味を表す一方, as の場合には理由を表すこともある。本問では意味内容から理由にすべきである。
- (4) 「彼らは授業が終わるとすぐに教室を飛び出した。」  
 ○ no sooner ~ than … 「～するとすぐに…」

B.

**解答**

- (1) when (2) before (3) soon (4) may

**解説**

- (1) (X) 「私たちが外出しようとした途端、家が揺れた。」  
(Y) 「人は時にその資格がないのに人からの感謝を期待することがある。」  
○ gratitude 「感謝の気持ち」  
○ entitle O to ~ 「O に~を得る資格を与える」
- (2) (X) 「彼があまり遠くにいかないうちに雨が降りだした。」  
(Y) 「まもなく太陽が昇る。」  
○ It will not be long before S V 「まもなく S は V するだろう」
- (3) (X) 「彼と外出するよりも家にいたい。」  
○ would (just) as soon ... (as ~) 「(~するよりも) むしろ...したい」  
(Y) 「ベッドの入るとすぐに彼はぐっすりと眠った。」
- (4) (X) 「物事を不完全にしか知らないくらいなら何1つ知らない方がました。」  
○ may [might] as ~ as ... 「...するくらいなら~する方がました」  
(Y) 「あなたが混乱するのは無理もない。このようなことが起こったことがなかったのだから。」  
○ may well ... 「...するのをもっともだ」

**【4】**

**解答**

- (1) bored (2) shortage (3) typical (4) urgent (5) choice

**解説**

- (1) 「その講義はまったく面白くなかったので、みんな ( ) に見えた」とあるので、「退屈にさせる」の意の bore の過去分詞 bored をいれて「退屈しているように見えた」とする。  
cf. His lecture is *boring*. (彼の講義は退屈だ。)  
I am *bored* to death. (ほとほとうんざりしている。)
- (2) 「今年の夏は深刻な水不足を被った」とあるので、short の名詞形の shortage を入れ、a severe water shortage で「深刻な水不足」とする。  
cf. a drastic labor *shortage* (甚だしい労働力の不足)  
a critical *shortage* of foreign currency (危機的な外貨不足)
- (3) 例えば It is kind of you to say so. といった基本的なパターンからわかるように、It is ( ) of her to whistle while she works. の ( ) の中には形容詞が入ることがわかる。そこで、それぞれの選択肢を形容詞にしてみると、  
○ class → classic 「第一級の」 / classical 「古典の」  
○ like → likely 「~しそうな；あつらえ向きの」  
cf. a *likely* place to play games (ゲームをするのに格好の場所)

- nature → natural 「当然の；自然の」
- style → stylish 「当世風の」
- type → typical 「～に特有な」となる。

この中で、It is ( ) of her to whistle ～の構文をとれ、意味的にも合うのは typical だけである。

It is (typical) of her to whistle while she works. She is always cheerful.

「仕事中に口笛とはいかにも彼女らしい。彼女はいつも陽気である。」

なお、前述した、It is kind of you to say so. が You are kind to say so. と書き換えが可能なのに対して、本問は、She is typical to whistle ～と書き換えることはできない。これは typical という語の語用から生じることで辞書を引いて確認するしかない。

- (4) ( ) を取って意味を取ると「戦後主要幹線道路の大半は、修理が必要とされていた。」となる。

本問は、be in ( ) need of ～ (～を必要としている) という定型の中で need とコロケーションをなす形容詞を要求する問題で、結論を言ってしまうと、urgent である。この問題を瞬時にわかるようにするには、慣用的な連語の形で、単語を記憶しておくことが大切。

e.g. an urgent need (緊急の必要)

Ex. They are in urgent need of help. (彼らは緊急の救助を必要としている。)

※ be in need of ～の枠組みの中では need は不加算名詞なので a は付かない。

- (5) 「彼女は成人した女性なので、(自分の選んだ) 男性と結婚するのは誰も止められない。」よく耳にする内容であるから、( ) を類推し、choice を入れるのは容易。
- of one's (own) choice 「自分で選んだ；好き好んで」
  - cf. the girl of his choice (彼のめがねに適った女性)

## 【5】

### 解答

- (1) c      (2) b      (3) a      (4) c      (5) c  
 (6) d      (7) c      (8) a      (9) ○      (10) a

### 解説

- (1) 「我々が知っているように、合衆国で使われているお金の大部分は小切手の形態をとっている。もっとも、皆が小切手を書けるわけではないが。」

- a 現在完了〔継続〕○
- b in (‘状態’を表す前置詞)○
- c although は従属接続詞で、節の頭にしか置けない。文頭・文中・文尾のいずれにも置け、‘譲歩’の意味を表すのは however。though ならよい。
- d check n. 「小切手」○

○ write out ～ 「～ (=小切手) を書く」 out は副詞。

- (2) 「英国人であるデビット・ニュートンは、ロンドンでイラストを勉強した。そして、アフリカで数年過ごし、その間にさまざまな国の広告代理店で働いた後、英国に戻った。」

- a 「イギリス人の男性」という場合は, an English man でよい。○  
David Newton と同格。
- b 「前置詞+関係代名詞」で先行詞は前出の several years in Africa, つまり *the several years in Africa* という‘特定の期間’を表すので前置詞は during になる。for は不特定の期間について用いるのが原則。ただし, the past [last ; next] three years などでは, for も可。
- c work for ~ 「~に勤めている」○  
for は「雇用関係」を表し, at は「勤務先」を表す。

※ I work | for Z-kai.  
          | at Z-kai.  
          | in Shibuya.

が自然なチャンクというのが4人の米国人インフォーマントの意見。

- d return to ~ 「~に戻る」○  
○ illustration 「イラスト」 < illustrate  
○ advertising agency 「広告代理店」  
○ agency 「代理店；取次店」
- (3) 「牛は, その肉が売られる場所から2千マイル離れたところで食肉処理される。」
- a cattle は集合名詞で, 通例複数扱いなので, is ではなく are になる。  
cf. The police *are* after you. (警察が君を追っている)
- slaughter 「(家畜を) 解体処理する」
- b two thousand miles はここでは, 「2千マイルの分だけ」の意の副詞相当語句。○
- c meat は物質名詞で通例無冠詞であるが, ‘特定なもの’を示す場合は, the が付く。  
○
- d この sell は他動詞なので be sold で問題ない。
- (4) A: 「上司のこの新しい見解を聞いたことがありますか。」  
B: 「いいえ, ありません。それがどんなものか私に教えて下さい。」
- a hear 「~を聞き知る」○  
cf. hear of ~ (～の噂を聞く)
- b, c this は限定詞で同じ限定詞の所有格と並べて用いることはできない (× the boss's this new idea) ので ‘of + 所有格 (of the boss' [boss's])’ の形で名詞の後に置いて所有関係を表す [二重所有格]。  
※ boss は単数形なので boss's も正しい。  
※ this new idea of the boss は「上司についてのこの新しい見解」の意味になり, 文意がおかしいので, c は不適。
- of = about ; concerning
- d what S is 「Sが何であるか」○
- (5) 「ドイツのバス運転手は皆, イギリスのバス運転手と同じだけ給料をもらっている。」
- a every + 単数名詞 「あらゆる～；どの～」 [単数扱い]
- b get paid 「給料をもらう」○

- c {Every German bus driver gets paid} と, {a British bus driver gets paid} の2文の get paid の程度の比較なので, as much as となる。
- d does = gets paid
- (6) 「その会社はコンピュータばかりでなく, 事務用品の一流の製造業者として有名である。」
- a as 「～として」〔前置詞〕○
- b leading 「一流の; 主要な」○
- c, d manufacturer of office equipment
- of は‘限定’を表す。○
- equipment 「装備; 機器」< equip = supply  
不可算名詞なので -s は不要。
- not only A but also B 「A ばかりでなく B も」
- (7) 「デパートは冬服の特売をしていたので, 彼女はクレジットカードで2着洋服を買った。」
- a have a sale on [of] ～ 「～の大安売りをする」○
- sale 「特売」 cf. for sale (売り物の; 売りに)
- on sale 「販売されて」
- b clothing 「衣類・衣料品」U〔集合名詞〕○  
数える場合は an article [a piece; an item] of clothing
- c clothes 「衣服」  
集合名詞で複数扱い。数詞とともに用いない。その場合は two suits of clothes とする。< clothe *vt.*
- d with a credit card の with は‘手段’を表す。○
- (8) 「学生の大部分は, 平和な国で生活しているとはいかに幸せなことかわかったようだった。」
- a most of の後ろには, 特定のものが続くので, the が必要 (= most students)。
- b 完了不定詞は述語動詞より前の時, または完了を表す。○  
(= It seemed that most of the students had understood ~)
- c how + 形容詞〔副詞〕「どんなに〔いかに〕～か」○
- d ‘判断の根拠’を表す副詞用法の不定詞  
to be living は一時的にそこに住んでいることを意味する。○
- (9) 「今日は, 君は少し元気がないように見える。何か私に言うことがあるんじゃないか。気にかかっていることを何でも私に話してみなさい。」
- a somewhat 「いくぶん; やや; 多少」○
- b 疑問文・否定文では通例 something を用いず, anything が用いられるが, 話し手の中に肯定の気持ちが強い場合は, something を用いる。○
- c anything (任意) ○
- d on one's mind < be on one's mind 「(人)の気にかかっている」○  
○ distress ～ 「～を悩ませる〔悲しませる〕」
- (10) 「私が予想していた以上にはるかに多くの人々が, 前売り券を買うために劇場の周り

に長い列を作って立っていた。」

a 「ずっと多い」の意味を表す時は、‘many more + 複数名詞’ ‘much more + 不可算名詞’ の形をとる。people は複数名詞なので much ではなく、many になる。

※この many more は、one more ; two more ; three more の延長として考えるとわかりやすい。つまり、正しくは、many は比較級を強めているのではなく、差を表す副詞。

b 過去完了 [大過去] ○

c people を修飾する現在分詞 ○

d in a long line 「長い列を作って」○

○ advance ticket 「前売券」

## 【6】

### 解答

(1) of (2) in [on] (3) of (4) on

(5) from (6) in (7) for (8) at

### 解説

(1) 「この都市の人口は増え続け、とうとう6月1日現在で20万人に達した。」

○ as of ~ 「(何月何日) 現在で」

(2) 「その数学のテストで70点より高い点数をとったのは、全生徒の10%よりも少なかった。」

‘限定’を表す in / ‘関連’を表す on

(3) 「満員の7万7千人近い聴衆がコンサートのためにそのスタジアムにぎっしりと入った。」

‘構成’を表す of。

cf. an *audience of* 700 (700人から成る聴衆)

○ capacity (形容詞的に用いて) 「満員の」

○ close to ~ = almost ~

(4) 「これらの手工芸品は大規模に作られている。」

○ on a ~ (=形容詞) scale 「～な規模で」

(5) 「この地域では、午前8時から午後8時まではトラックは住宅用道路を通ってはいけない。」

○ prohibit A from …ing 「Aが…するのを禁止する」

‘防御・制止’を表す from。

○ residential 「住宅の；住宅向きの」 < resident 「*adj.* 居住している」「*n.* 居住者」

(6) 「警察官の制服を着ていなかったので、私はその男が誰だかわからなかった。」

‘着用’を表す in。

(7) 「コンピュータシステムの導入によって、会社の完全な再編が必要となった。」

○ call for ~ 「～を求める」

‘目的’を表す for。

- reorganization 「組織再編成；再建」
- (8) 「2012 年末に、アメリカの工場は全生産に近い能力をあげて作動していた。」
- at full capacity 「全生産能力をあげて」
- ‘程度・割合’を表す at。

【7】

A.

**解答**

- (1) He went out with the heater on.
- (2) Shall I [we] ask her to send us the book?
- (3) The taxi went back the way it had come.
- (4) There were only a small number of people present.

**解説**

- (1) 「彼は外出した」は he went out。「ヒーターをつけたまま」をどう表すかだが、He sat there *with his eyes closed*. のような、いわゆる‘付帯状況’の with を含む文はこれまでに何度も見たことがあるはず。‘with + 名詞(句) + 補語 (= 形容詞・分詞・副詞)’という形になるので、ここでも同様に He went out *with the heater on*. とすればよい。
- (2) 「…しましょうか」は、Shall が与えられているので、Shall I [we] …? とする(ここでは文全体の主語は明示されていないので、1人称単数・複数どちらでも可)。「～に…してくれるように頼む」は ask ~ to …だから、「彼女にその本を送ってくれと頼む」は (send の間接目的語は us が与えられているので) ask her to send us the book でよい。したがって、Shall I [we] ask her to send us the book? となる。
- (3) 「来た道を引き返していった」をどう表すかがポイント。back と way が与えられていることから、「(～が) 来たその道に戻っていった」と考えて、went back the way ~ came となるが、最後に与えられているのは come なので、時制を1つ過去にずらして、went back the way ~ *had come* とすればよい (had come の主語はもちろん「タクシー」で、代名詞 it で表す)。
- (4) 「ほんの少数の人しか出席していなかった」という日本語だが、There で始めるという指定なので、「ほんの少数の人だけが出席していた」と考えて、There were ~ present. とする (present は「出席している」の意味の場合には名詞の後にくる点に注意)。

cf. the members *present* (出席している会員)

the *present* members (現会員)

「ほんの少数の人」は、number が与えられているので、only a small *number* of people とする。

B.

**解答**

Many people seem to be dissatisfied with reading books unless they buy the books themselves and feel free to write notes in the margins.

**別解**

A great number of people seem to feel they have not really read books if they have not bought the books themselves and made margin notes at will.

**解説**

「…という人が多いようだ」は, many [a great number of] people seem to …という書き出しにするのが最も簡潔。

「読んだ気がしない」は, 「本当に読んだと感じない」と考えて, feel they have not really read books とするか, あるいは, 「本を読んでも満足しない」と解釈して, be dissatisfied with reading books とすることもできる。

「…しないと」は, その後に unless …, または if ~ not …で続ける。

「本を自分で買って自由に書き込みをする」の主語は, many [a great number of] people を受けて they とする。「本を自分で買って」は「本を自分自身で買って」ということなので themselves を用いればよいが, they *themselves* buy the books とするよりも, 副詞的な意味合いを出すために, they buy the books *themselves* のように主語と離す方がよい (books はその前に述べられているので, 定冠詞 the が必要)。

「自由に…する」は feel free to …を用いるとよい。または, 最後に at will を付けて「自由に」の意を表すこともできる。

「書き込みをする」は make margin notes, または, write notes in the margins。note は「メモ」, margin は「余白；欄外」の意。なお, 和英辞典の中には「書き込みをする」に scribble を挙げているものもあるが, これは間違いで, 「落書きをする」の意味である。

**【8】**

**解答例1**

- (1) prefer to communicate face to face with people and enjoy their company
- (2) prefer written communication, such as letters and e-mail, in which they can put together their thoughts
- (3) to find an effective means of communication by which you can express yourself fully (42 語)

**解答例2**

- (1) are big talkers or say whatever comes to mind without thinking
- (2) are poor speakers or those of few words, who seldom make a remark unless spoken to
- (3) to discover how the other person prefers to communicate so that the true meaning of their words can be understood (47 語)

次のSTEPに従って解答に迫ろう。

◆STEP 1 どんなタイプの問題か → 文脈穴埋め型の問題

東大で時々出題される、本文に複数ある空所を短い文〔節〕で埋めるという形式の問題。空所内で完結した英文としての正しさに加え、全体の文脈における一貫性・整合性が求められる。全文を書かなくていい分、一見簡単そうに見えるが、実は完全自由英作文に比べ、難度の高い問題。

◆STEP 2 テーマは何か → コミュニケーションスタイルの違い

Communication styles という言葉から「会話における話し方のスタイル」がまず思い浮かぶかもしれない。広義のコミュニケーションにとらえ、面と向かっての会話の他に、電話や手紙、メール、インターネットを通じたチャットなど、伝える媒体の形式だと考えることもできる。

◆STEP 3 書く前にやるべきことは何か? → 空所を埋める作戦を立ててみよう

これから書く1文1文は短いことが予想されるのでいきなり書き始めたくなるかもしれないが、まずは文脈に沿った解答になるように、どういったことを書くべきか整理することをお勧めする。英文を見ると、まず第2文に For example とあるので、(1)と(2)にはコミュニケーションスタイルの具体例を書く必要があることがわかる。また、some people (1), while others (2) . となっているので、(1)と(2)は「対比」の内容でなければならない。  
→ 作戦① (1)と(2)をどういう点で対比させるか、について考えてみよう。

次に、(3)を含む文は Therefore で始まっているので、これまでのまとめであるべきで、特にここでは(1)と(2)というコミュニケーションスタイルの違いをどのように乗り越えるか、といった内容を書けばよいという見通しを立てる。

→ 作戦② (1)と(2)で挙げた具体例に応じた「まとめ方」を考えてみよう。

作戦①と作戦②を解答例に即してまとめてみよう。

○解答例1の場合

- (1)〔具体例1〕面と向かってのコミュニケーションを好む人
- (2)〔具体例2〕書くことを通じたコミュニケーションを好む人
- (3)〔まとめ〕自分が一番表現しやすい方法を選ぶ。

○解答例2の場合

- (1)〔具体例1〕大風呂敷を広げて話す人、おしゃべりな人
- (2)〔具体例2〕話下手の人、寡黙な人
- (3)〔まとめ〕相手の話し方ごとに真意の理解に努める。

◆STEP 4 英語で書くとうなるか? → 単語が出てこない場合は平易な表現で代用するSTEP 3で書いた図を英語に置き換えようとしても、その単語が英語で思い浮かばず、まったく書けなくなってしまうという事態に陥ることがある。STEP 3で用いた日本語に相当する英語の表現がすぐに思い浮かばない時には、柔軟に頭を切り替えて別の表現で代用できるようになるとよい。

「面と向かってのコミュニケーション」face-to-face communication。思い浮かばなければ、talk directly with others など。

「書くことを通じたコミュニケーション」 written communication

「大風呂敷を広げて話す人」big talker. talk exaggeratedly でも同じようなことを伝えられる。

「おしゃべりな」 talkative. 思いつかなければ, speak too much など。

「寡黙な」 taciturn ; of few words. 思いつかなければ speak little など。

「真意」 true meaning of *one's* words. what ~ really means [thinks] でもよい。

## 【9】

### 解答・解説

◆は『解体英熟語 改訂第2版』の参照番号を示す。

- (1) have [get ; go], way ◆ 448  
○ have [get ; go] *one's* own way 「自分の思い通りにする」
- (2) sense ◆ 449  
○ make sense 「道理にかなう」
- (3) progress [advance ; improvement] ◆ 450  
○ make progress 「進歩する」
- (4) difference ◆ 451  
○ make no difference 「重要でない←違いがない」  
⇔ make a difference 「重要だ」
- (5) believe ◆ 453  
○ make believe that 節 「…のふりをする」
- (6) it ◆ 454  
○ make it 「電車などに間に合う」
- (7) harm, good ◆ 457, ◆ 458  
○ do A harm ; do harm to A 「A に害を与える」
- (8) justice ◆ 460  
○ do A justice ; do justice to A 「A を実物どおりに表す」
- (9) took place ◆ 461  
○ take place 「起きる」
- (10) takes, pains ◆ 463  
○ take great pains 「(非常に) 苦勞する」
- (11) took, liberty to use [of using] ◆ 466  
○ take the liberty to … [of …ing] 「勝手に…する」
- (12) mind, business ◆ 469  
○ Mind your own business. 「(命令形で) 余計な口出しをするな。」  
cf. interfere in A [intervene in A ; meddle in A] (A に干渉する)
- (13) came to light ◆ 473  
○ come to light 「秘密などが明るみになる」  
cf. bring A to light (A を明るみに出す)
- (14) nothing, do with ◆ 474

- have nothing to do with A 「A と関係がない」
- have something [much] to do with A 「A とある程度 [大いに] 関係がある」
- (15) make sure ◆ 480
  - make sure (of ~ ; that 節 ; wh- 節) : ① 「…を確かめる [念を入れる]」
  - ② 「…を確保する」
- (16) far ◆ 482
  - go too far 「行きすぎる ; 言いすぎる」
  - take back A 「A (=言葉など) を取り消す [撤回する]」
- (17) served, right ◆ 483
  - serve right 「自業自得だ ; いい気味だ」
- (18) willing to [ready to ; prepared to] ◆ 500
  - be willing to … 「甘んじて…する」
  - be ready [prepared] to … 「喜んで…する ; …する準備ができています」 ◆ 495
  - ⇔ be reluctant [unwilling] to … ◆ 501
- (19) obliged [compelled ; forced ; bound] to ◆ 504
  - be obliged [compelled ; forced ; bound] to … 「…せざるを得ない」
  - oblige, bind [-bound-bound] には '義務', compel, force には '強制' の意味が含まれる (force の方がより強制の意味が強い)。 ◆ 491, ◆ 502, ◆ 503
- (20) to blame ◆ 506
  - be to blame for A 「A の事で悪い [責任がある]」